



2023年7月9日主日合同礼拝メッセージ

日本同盟基督教団 クリスチャンブレイズチャーチ

『真の平和と平安を与える為に来られたイエスのように！』

説教者：鄭 南哲牧師

本日聖書箇所：ヨハネの福音書 20章 19-21節・ピリピ人への手紙 4章 6-7節 (Rev. Jung namchul)

昔も今もイスラエルでは“シャローム (Shalom)！”というあいさつをしています。これは‘あなたに神様の平安があるように’という意味です。私たちも同じようにいつも人々に会ったらまず相手に平安と平和を祈ってあげる生き方になってほしいですね。その意味で、まず、となりの人と‘シャローム’とあいさつをまわしましょうか。

＜1. 三位一体の神様が我らに与えようとするものを与える- 真の平安 (平和) PEACE !＞

我らが信じている神様は平和の神であられ、神を愛し、信じるすべての人々に平和を与えて下さるお方であることを聖書ではよく教えて下さっています。

「神は混乱の神ではなく、**平和の神**だからです。(コリント人への手紙第一14章33節)」

「しかし、**御霊**の実は愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」

(# **平安・平和(ギリシャ語の聖書には: エイレイネ)**は英語の聖書だと全部 **peace** の意味で使われています。)

① **平和の君として来られ、神と和解させ、真の平安を与える為に来られたイエス・キリスト**

特に、神の御子救い主なるイエスキリストがこの世に来られたのは、罪の中神様との関係が断絶されていた人類の人々を、罪を赦し、救い出して神様と和解させ、神との真の平和の関係を回復させ、神の真の平安のうちに生きようとするためであることを聖書は明らかにして下さいます。

まず、旧約聖書の中多くの人物や預言者たちがメシアイエスキリストが来られることについて預言していましたが、特に、イザヤ預言者はイエス様のお生まれの前 B.C.759年にイエスキリストの降誕についてとても具体的に予言していました。処女がみごもって、男の子の赤んぼの人の姿でとして来られること！そのメシアなるイエスキリストが全世界を治め、神の平和を与え、救うために苦難を背負うことになることを具体的に予言しましたが、その内容がイザヤ書9章にはこう書かれています。

* **イザヤ書9章6節**です。

「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、**平和の君**」と呼ばれる。」

そして実際、救い主としてイエスキリストがお生まれになった時に、御使いたちはイエスキリストのご誕生についてこう宣布しました。*** ルカの福音書2章10～14節**

「10恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。11今日ダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。12あなたがたは、布にくるまって飼料おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これがあなたがたのしるしです。13すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。14いと高き所に、栄光が、神にあるように。**地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。**」

そのイエス様は十字架につけられる前夜、弟子たちに御霊を約束しながら神の平安を与えます。

ヨハネの福音書14章27節にイエスキリストは、「**わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がしてはなりません。ひるんでは(恐れては)なりません。**」

そして、**イエス・キリストが十字架で死なれたことによって神様と和解され、神との平和の関係が結ぶことが出来る道が開かれたと教えて下さっています。**

(イザヤ書53章4～6節)「4まことに、彼は私たちの 病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。彼は罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。5しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに**平安をもたらし、彼の打ち傷にゆえに、私たちは癒された。**6私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ、自分勝手な道に向かって行った。しかし、**主は、私たちすべての者の咎を彼に負わせた。**」

(コロサイ人への手紙1章20節)「**その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させてくださ**

ったからです。地にあるものも、天にあるものも、**御子によって和解させる**ことを良しとして下さったからです。」

「(ローマ人への手紙5章1節)こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、**神との平和を持っています。**」

また、十字架で死なれ、ほむられ、三日目によみがえられたイエス・キリストは、「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。『平安があなたがたにあるように。』こう言って、イエスは手と脇腹(わきばら)を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。」(ヨハネの福音書20章19～20節)。また再びイエスキリストは弟子たちに、「21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

扉を閉じ、鍵をかけ、部屋の中に閉じ籠もっていた弟子たち！彼らの心もまた恐れと不安の中で閉ざされていた彼らにこの世が知らない神の平安と平和を与えて下さいました！死に打ち勝ってよみがえられた主イエス・キリストは不安で恐れている弟子たちの真ん中にお出でくださいました。そして「平安があなたがたにあるように！」とってくださいました。

復活の後、イエス様がエマオという村に行く道で落胆している弟子たちに会った時にも“**あなたがたに平安があるように！**”と平安を与えて下さいました(ルカ24:36)。

どうか本日も礼拝に集っていらっしゃる愛するクリスチャンプレイズ教会の兄弟姉妹おひとりひとりのもとにも、よみがえられ、今も生きておられる復活の主イエスキリストがお出でくださることを信じ、心から待ち望みます。そして、みなさんお一人お一人の上に神の平安を与え、不安や恐れ、複雑な心、思い煩いの心のうちを豊かに満たして下さいますように切に祈ります！

もし、今みなさんの中で神様との関係が切れている、離れている、こじれている方々がいらっしゃるならば、主イエスキリストが神様との関係を回復させ、神の平和がみなさんの上に訪れ、満たされますように切に祈ります！

もう一度、イエスキリストの約束されたヨハネの福音書14章27節、「**わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がしてはなりません。ひるんでは(恐れては)なりません。**」

「(エペソ人への手紙2章14節)**キリストこそ私たちの平和です。二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし。**」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々が信じている神様こそ、真の平和の神様であられ、イエスキリストこそ、我らの人生の壁を打ちこわし、和解させ、この世が知らない神の真の平和と平安を与えることが出来るお方です。

ですから、私たちがその平和の神様を信じ、日々信頼し、心から委ねていく時に、つまり、神様と和解された人々には、聖霊の実として必ず、平安の実も結ばれ、あらわれて、その神の平和の力が自然にみなさんを通して、家族や周りの人々との関係の中にも、平和を味わい、保たれるように守られていくと信じます！

御霊の実である平安、平和というのは変わることはないことを意味します。私たちの感情的な安定ぐらいのものではありません。聖書で言う平安というのは人によるぐらいのものではありません。力があります。自分自身と他人をかえる力があります。神様からの平安は自分の人生においてどんなにむずかしい問題がやってきてもゆるがず、人による関係の葛藤と悩みがあっても、むしろ、自分自身が頂いた神の平安によって、その人たちとも平和の關係にさせる力があります。

そしたら、今日、これから私たちはどうすれば、日々実際イエス・キリストにある平安を頂き、平和の人生と關係を保ち続けながら生きることが出来るでしょうか。

① **日々定期的に神の御言葉を自身に聞かせ、心に留めて神の平安を得る**

神の御言葉を自身に聞かせ、心に留めることこそ、いくらあせても、感情的になっても、不安になっても、一番確実に自分を落ち着かせ、キリストの平安に自分を取り戻せる力であり、平安へ導く神の力です！

* 詩篇119篇165節「**あなたのみおしえを愛する者には豊かな平安があり、つまずきがありません。**」

* イザヤ書39章8節「ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告げてくれた**主のことば**はありがたい。」彼は、**自分が生きている間は平和と安定があるだろう、**と思ったのである。」

*イザヤ書54章13節「あなたの子たちはみな、主によって教えられ、あなたの子たちには豊かな平安がある。」

②日々定期的に祈りを通して心をさらけ出し、平安で守られる

色々な心配や不安、思い煩いがない人がこの世の中いるでしょうか。

しかし、どうすれば、そういうものから自分の心を守り、それらを取り除き、平安を保つことが出来るでしょうか。

今日の本文、ピリピ人への手紙4章6～7節にその答えがあります！

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

イエスキリストの御名によって常に、定期的に祈りを通して、自分の思いや心の中に生じる煩いを取り除き、おろすことが出来るのです。そして、それだけではなく、キリストの平安で守られ、満たすことが出来ると約束されています。

本文の6節をみてください。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」平安の生活を脅かす一つのことは思い煩うことです。思い煩うことがあれば、心の平安はまた揺るがされます。ギリシャ語で思い煩うというのは‘メリムナオ’という単語で、自分でコントロールできないことを問題とし、自ら自身の心を苦しませる意味の言葉ですが、特にこの‘メリムナオ’という単語には‘心が分かれる’という言葉の意味があります。そういうわけですので、思い煩えば煩うほど、自分たちの心はますます分裂してしまいます。度を過ぎると結局精神分裂症になってしまうのです。「思い煩い」というのはこのように破壊的なものです。実に我々が思い煩うことによって解決はけつてありません。そしたら、どうすれば、様々な思い煩いを克服し、キリストの平安の生活、神の平和をつくる人生を経験し続けることができるのでしょうか。

自分の思いや心の中で、何か思い煩うことや心配ことが生じた時には、それを祈りの言葉に変えることです。

つまり、自分に思いわずらいがあったとしたら‘あ! 今祈るべき時だ!’とって祈る時を持つということです。

どんな祈りですか。普通の日常的な、形だけの祈りではありません。‘祈りと切に求めること(prayer and petition)’によって、新改訳聖書では(祈りと願いによって)だと訳されていますが、ギリシャ語の原文と英語の聖書では祈りと懇願(切に求める祈り)をもって神様に祈りなさいと書かれています。祈りますが、切に求めることを集中的に祈ること、つまり、懇切に求める祈りを意味するのです。「神様に知っていただきなさい」と言うことばは、ギリシャ語の聖書本文では、「グノリゾ(知らせる)」ということばの現在受動命令形として、正しく解釈すると、「(一度だけではなく)神に知られるように持続的に祈りなさい」と言う意味であります。いつまでですか。神様の平安が自分の心に訪れ満たされるまで、根気よく、続けて切に求めなさいという意味なのです。

そうすれば、どんなことが起こりますか。7節です。

「7そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

とても注目すべきな部分は、神様は私たちが祈れば思い煩っていたすべてがすぐに消え去るのだとか、うまく解決されるのだとは約束されてないことです。もちろん祈るとすぐに思いもよらなかった不思議な奇跡が起こって問題が解決される場合もあります。みなさんのまわりにそのような場合もあったと思います。しかしこれは例外でもあります。だいたいの場合は何度も祈ったのにもかかわらず、思い煩っている環境や問題その自体はかわらずにそのままであることです。

しかし、7節の御言葉によると「神様の平安があなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださる」と約束されているのです。しばらく思い煩い、そのものはそのままであるかも知れません。しかし、それと関係なく、神様の平安が自分の心と思いを守ってくださるので、神様に任せて平安のうちにまた過ごせるのです。

愛するみなさん！わたしたちの人生はまさに、手におえないものであり、あるで、あらしの海を航海する船のようでしょう。おさまったと思ったら、次は違ったはげしいあらしが襲って来て、わたしたちを倒そうとします。時にはたえないほどの荒波によって人生の船がもうおしつぶされそうです。どうすれば、おさまった海のようにわれわれの人生に平安を保つことができるのでしょうか。簡単です。自分たちの人生の船にイエスキリストを招き、その人生の船の舵(かじ)をイエス様にゆだねることです。人生の船の船長を自分からイエス様に委ねて、進んでいけば、イエス様は私たちが真の平安の道に導いてくださいます。

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！人生の自分の願い通りならず、自分の力でコントロールが出来ず、煩うことは絶えずあるでしょう。しかし、その時に、私たちの心と思いがちゃんと神の平安のうちに守られていれば、十分に忍びつつ、その

問題を克服し、乗り越え続けて進めると信じます。私たちの平和を与えるために、イエス様は十字架の上ですべての代価を払われました。ですから、キリストの平安が必要でしたら、イエスキリストの聖書の御言葉とともに、主に祈り続こうではありませんか。そうする時に、必ず、神の平安が我らの心と思いを守って下さるので、安心出来るでしょう。

ここにすでにみなさんに何度も紹介したことのあり、週報のコラムにも書きましたが、この平安の祈りを毎日一日が神に祈り続けることをお勧めします。そして、夜にはまた明日への為に、感謝を持って、平和の道具として用いられることを期待し、平和の祈りを捧げたら、いかがでしょうか。

＜平安の祈り＞

ラインホルド・ニーバー先生

神様、どうか私にお与えください。
変えられないものを受け入れる心の平安を
変えられるものを変える勇気を
そして、その違いを見極める知恵を
与えられた一日を精一杯生きることができるよう
一瞬一瞬を楽しむことができるように
苦しみは平安への通り道であることを
受け入れることができるように
たとえ自分の願い通りにならなくても
主イエスがされたように
この罪深い世界をそのまま受け入れることができるように
もしあなたの御心にゆだねるなら
あなたがすべてを正しく導いてくださることを
信じることができるように
そうすれば、私はこの地上において幸いな人生を送り
また天国においては、あなたと共にある最高の幸せに
あずかることができると信じます
今日もすべてを御手にゆだね、
平和の主イエスキリストの御名によって祈ります！アーメン！

『平和の祈り』

アシシのプランシスコ

主よ！わたしを平和の道具にしてください
憎しみのあるところに愛を 争いのあるところに和解を
分裂のあるところには一致を 疑いのあるところには信仰を
誤りのあるところには真理を 絶望のあるところには希望を
悲しみのあるところに喜びを 闇には光をもたらすことができますように
主よ！わたがあれこれ求めるより、かえって慰められるより慰めることを
理解されようとするより理解することを
愛されようとするより愛することを望ませてください
恵みのうちに恵みを受け 赦しのうちに赦され 死のうちに永遠に生きるのだから
主よ、平和を作る者として用いて下さい。すべての感謝し イエスキリストの御名によって祈ります アーメン！

マタイの福音書5:9節で「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子供と呼ばれるからです。」

自分に平安があり、平和をつくる者になるため、自分が持っている神の平安をもって自ら、仕え、分け与えながら、神の平和を分かち合うことではないでしょうか。始まった新しい一週間、一日が始まる時には平安の祈りを、一日が終わり、寝る前にまた感謝しつつ、明日の主の平和を作る者させて下さるように祈り求めつつ、眠ったらいかがでしょうか。願わくは、愛する信仰の家族のみなさんの人生、家庭、職場の上に神の平安と平和がますます豊かに満ち溢れるようにさせて下さるように祝福をお祈り申し上げます。“主よ、大騒ぎ、恐れ、不安、思い煩い、罪深いこの世の中で私たちを神の平和の道具として用いてください。我々に神の平安を与え、神の平和の実をも豊かに結ばせてください。平和の主なるイエス様の御名によって祈ります。アーメン!!